178
1 vol
$1.00
Masanobu

坂上是則
朝ぼらけ有明の月とみるまでよしのゝ里にふれる白雪
風さそふうき名ハ
よしのゝ里にふれる白雪
寝覚女

山川ニ風のかけたるしがらみは
ながれもあへぬもみぢなりけり
踊子娘

町方女

春風は花をちらし侍るゆへ中に不吹風もふけそのどかにしく侍るに花のしづ心なくちるをみてよめし
ことゝいふなるへのとけき日に侍りぞ花はそこち
るといふまてちる千金の文字も出て千金も
かへぬる日にしづ心なく花のちるらむと侍りぞと
さいぞへて見侍る花の人と人のしづ心なき哉

藤原興風
誰をかもしる人にせむ高砂の
松もむかしの
友ならなくに

紀貫之
関寺に老木
老女姿

人

叶屋

人
文屋朝康
志ら露にかせの
吹しく秋のゝは
つらぬきとめぬ
玉そちりける
んこそ法にそまぬ
蓮の露
はつらぬきとめぬ
玉そちりける
蓮見女
枚八

人

あさちふハをのゝしの原といゝハんためなり
忍ふれはおもひそこのあまりてのとかはしの
人めをつゝみしのふれとも忍ひとなりかたく
あさちふのをのゝしのはらのしのふともしの
あまりてとなれハ我ひとりねをまちてあま
りて人よもこそとや人まちもかなし

平兼盛
君ふきといろに出けり我恋ハ
ものやおもふと人のとふまで
紬着てかくや娘が羽織着し
ものやおもふと人のとふまで